

TAD Letter

33



富山県美術館
アート&デザイン

ハッチポッチ 藤枝リュウジの世界

HOTCH POTCH: Illustrations and Works of Ryuji Fujieda

2026年2月7日(土) - 4月5日(日)



イラストレーター&アートディレクターとして半世紀以上のキャリアを持ち、今なお精力的に制作を続ける藤枝リュウジ(1943-)。絵本、雑誌や本の装幀をはじめ、広告・テレビのアートディレクションなど、その活躍は多岐にわたります。1996年、アートディレクションを手がけたパペット番組「ハッチポッチステーション」がNHK教育テレビ(現・Eテレ)で放送開始。ポップで温かみのあるデザインは幅広い年代に親しまれ、その後「クイントット」「フックブックロー」「コレナンデ商会」と続く人気シリーズとなりました。また、1987年から毎年の

ように開催している、東京「HB Gallery」での個展は30回以上にのぼり、継続して新作イラストレーションを発表。藤枝リュウジの世界は広がり続けています。本展は、絵本や装幀、個展作品などのイラストレーション作品と、パペット番組をはじめとしたテレビ・広告などのアートディレクション作品から500点以上を紹介する、はじめての大規模展覧会です。愉しげな音色が聞こえてくるような、藤枝リュウジの「ハッチポッチ」な世界を、ぜひお楽しみください。 *ハッチポッチ=hotch potch=ごった煮

開催概要

開館時間 9:30~18:00(入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日(ただし2月11日は開館)、2月12日(木)、2月24日(火)

会場 富山県美術館 展示室2、3、4

観覧料 一般¥1100(850)円、大学生¥550(420)円、高校生以下無料※()内は20名以上の団体料金

POINT

藤枝さんの仕事

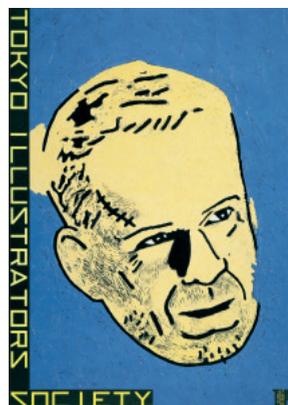
藤枝さんは、東京藝術大学を卒業後、1968年に広告制作会社サン・アドに入社し、デザイナーとしてキャリアをスタートしました。4年半ほどで退社しフリーランスに転向、アートディレクターとして独自の道を踏み出し、以降、半世紀以上にわたり、時にイラストレーターとして、時にアートディレクターとして活躍しています。作家との共作で絵本も数多く手がけ、絵本作家の石津ちひろさんと制作した、ことはあそびをテーマとした絵本はロングセラーとなり親しまれています。「第3回東京イラストレーターズ・ソサエティ展」のポスターは、1994年に富山県立近代美術館で開催された展覧会「第4回世界ポスタートリエンナーレトヤマ1994」で銅賞を受賞しました。

藤枝さんとこども番組

藤枝さんは、NHK教育テレビ（現・Eテレ）で1996年から2022年の間に放送されたパペット番組4タイトルのアートディレクションを担当しました。本展では、“グラフィックデザイナーがつくるこども番組”を目指したという、そのアートワークを、当時描かれた原画や、スタジオセットに用いられた美術などを中心に紹介。各番組に登場したパペットたちも展示します。

藤枝さんのイラストレーション

1987年に東京・表参道の「HB Gallery」で初の個展を開催、イラストレーター・藤枝リュウジの歩みが始まりました。以降、およそ年1回のペースで継続して開催しています。デザインワークとは一味異なる、のびやかでPOPなイラストレーションをご覧ください。本展のための描きおろし作品も展示します。



富山新聞復刊80年記念 谷川俊太郎 絵本★百貨展

2024年11月、92歳で亡くなった詩人の谷川俊太郎は1960年代以降、さまざまな絵描きや写真家と200冊にも及ぶ絵本を作ってきました。ことばあそび、世界のありようを認識する手がかり、ナンセンスの楽しみ。そして生きることの面白さや大変さ、尊さ、死や戦争までをテーマに、絵と言葉による表現に挑んでいます。バラエティ豊かな絵本に共通するのは、読み手に対する

る谷川俊太郎の希望の眼差しです。展覧会では約20冊の絵本を取り上げ、多彩なクリエイターとともに、絵本の原画、絵や言葉が動き出す映像、朗読や音、巨大な絵巻や書き下ろしのインスタレーション作品などを展示します。絵本の世界から飛び出した、子どもから大人まで誰もが楽しめるおもしろい展覧会です。

開催概要

会期 2026年4月18日(土)ー6月21日(日)
休館日 水曜日(ただし4月29日、5月6日は開館)、
5月7日(木)[予定]
会場 富山県美術館 展示室3、4
主催 富山県美術館、富山新聞、
北國新聞社、チューリップテレビ
協力 高志の国文学館
企画協力 ブルーシープ株式会社
観覧料 一般1,100円(850円)、大学生550円(420円)、
高校生以下無料、一般前売り850円
※()内は20名以上の団体料金



ポスタービジュアル アリヤマデザインストア

関連イベント情報

講演会

- 谷川俊太郎ーひと、絵本、詩から学んだ大切なこと
講師：生田美秋(高志の国文学館事業部長/絵本専門士養成講座講師)
日時：2026年4月25日(土) 14:00~15:30
- 谷川俊太郎の絵本の世界
講師：林 綾野(本展キュレーター/アートライター)
日時：2026年5月24日(日) 14:00~15:30
いずれも、会場は富山県美術館 3階ホール
申込不要・参加無料

記念コンサート「DiVaの音楽会 ～谷川俊太郎を歌う～」

約25年に渡り谷川俊太郎と「詩の朗読と歌のコンサート」で全国各地で共演を重ねてきたDiVaが、楽しい歌、かわいい歌、せつない歌、おもしろちょっとこわい歌、をお届けします。
出演：DiVa(谷川賢作、高瀬makoring*麻里子、大坪寛彦によるユニット)
日時：2026年5月30日(土) 14:00~(約90分)
会場：富山県美術館 2階ホワイエ
定員：約60席
申込不要・先着順・参加無料

ギャラリートーク

日時：2026年5月16日(土)、6月6日(土)
いずれも14:00~14:30
開始・集合場所 2階本展会場入口内すぐ、参加自由
※当日有効の企画展チケットが必要です。

ブックマーケット

絵本やアート本を中心に、人気古本屋が集まります
日時：2026年4月29日(水・祝)、30日(木)、6月6日(土)、7日(日)
いずれも10:00~17:30
場所：富山県美術館 2階ホワイエ(入場無料)

美術館にキッチンカーがやってくる

日時：2026年4月26日(日)、5月10日(日)、24日(日)、
6月14日(日) いずれも11:00~16:00
場所：富山県美術館 1階屋外スペース
※各日1台のキッチンカーが出店します。
※天候によって中止する場合があります。

POINT



1



2



3

多様なコンテンツの「百貨店」

アートディレクター、映像作家、建築家といった多彩なクリエイターたちが、原画、朗読、アニメーション、インスタレーションなどのさまざまな手段で絵本の世界を表現します。二次元から飛び出した谷川俊太郎の絵本の魅力を、ぜひ会場で体感してみてください。

谷川俊太郎の朗読が聴ける！

元永定正の絵による大人気の絵本『もこもこもこ』の世界を、谷川俊太郎の名朗読でお楽しみいただけます。ふわふわ、もこもこなクッションに座りながら、大画面の映像とともに、言葉のリズムと絵の響きあいのおもしろさをご堪能ください。

富山会場独自のミニ企画展示

谷川俊太郎と富山の縁の一端をご紹介します。

1. 東京会場 展示風景 (撮影：高橋マナミ)
2. 『もこもこもこ』 (絵・元永定正) 文研出版 1977
3. 『ままだす すきです すてきです』 (絵・タイガー立石) 福音館書店 1986

同時期開催の展覧会

コレクション展 I 期 特集展示

生誕100年 金山康喜／前田常作

二つの個展 富山県美術館コレクションを中心に

富山県にとって重要な2人の画家が生誕100年を迎える2026年、富山県美術館が所蔵する金山康喜(かなやま・やすき、1926～1959年)と前田常作(まえだ・じょうさく、1926～2007年)の代表作を展示します。両者はどちらもパリに渡り、絵画の道を進みましたが、金山はパリで認められながらも帰国後早逝。一方、前田はパリでの経験を経て帰国後、曼荼羅の画家として高く評価されました。生誕100年の節目となるこの機会に、改めて両者の画業を振り返ります。



金山康喜《食前の折り》(1950年)



前田常作《M氏の家族》(1956年)

開催概要

会 期 2026年4月11日(土)～6月23日(火)
休 館 日 水曜日(4月29日、5月6日は開館)、5月7日(木)
会 場 富山県美術館2階 展示室2
主 催 富山県美術館
観 覧 料 一般300円(240円)

※()内は20名以上の団体料金
※本展はコレクション展の料金でご覧いただけます。
企画展をご覧の方は、企画展のチケットでもご覧いただけます。

企画展「ポップ・アート 時代を変えた4人」関連ワークショップ

TADワークショップ

「なぞって、くみあわせる？わたしだけのカラフルポップ・アート」

2025年9月15日(月・祝) 子ども向け：10:30～12:00 大人向け：14:00～15:30

ひらのひかる

講師：平野暉(グラフィックデザイナー)

富山県内でグラフィックデザイナーとして活動されている平野暉さんを講師に迎え、企画展関連ワークショップとして実施しました。当日は、小学生とその保護者向けの回と、中学生以上向けの回の2回にわたって、新聞やチラシ、雑誌、ポスターなどの切り抜きから複数の透明シートに文字や画像をうつしとって組み作品を制作。これは、ポップ・アートの代表的作家であるアンディ・ウォーホルやロイ・リキテンスタインが、有名人の顔の写真、コミックのコマなどから図像を引用し、大きく図を引き伸ばしたり、同じ図を色を変えて作品としたことから着想を得たものです。

中には、切り抜きの山から気になる一枚を探すのに悩んだり、複数の透明シートに転写する際に手がしびれたという方も見られましたが、最後に完成した作品を互いに発表し合う際には、褒め合う声や感心する声、時には笑いが起こりました。



「DESIGN with FOCUS デザイナーの冒険展」

トークイベント



本展では、会期中の毎週土曜日(12月27日、年末年始を除く)に、10回のトークイベントを開催しました。特別出品を含めた11組の作家によるトークは、作品と新進気鋭のクリエイター自身の考え方をより理解する機会となりました。

初回11月8日の後藤映則氏の場合は、個性が自然と生じる「歩く」行動そのものに注目し、世界各国の横断

歩道で見かけた人の歩行を3次元モデル化して、3Dプリンターなどで再生する制作過程的なこと、未来派などの20世紀美術における「時間の経過」など自身の作品の背景になることなどをお話いただきました。

展示会場での大変興味深い展示との相乗効果もあり、各々のクリエイターの問題意識とその解決法を作品へ昇華した様子が伺えるイベントでした。

富山県美術館 令和7年度 アーティスト@TAD

環ROY&柏木美月「Fine Game in TAD」イベント

ワークショップ／参加型パフォーマンス「Fine Game in TAD」

2025年10月19日(日) 15:00～16:30 モデレーター：環ROY（ラッパー）

今年度のアーティスト@TADのタイトルとなっている「Fine Game」は、ラッパーの環ROYさんが構想した言葉のゲームです。モデレーターとなる環ROYさんが発した言葉を起点に、例えば「繋ぐ、鎖、金属、硬い、赤い…」といったように、連想、響き、韻を手掛かりにプレイヤーたちが順番に言葉を繋いでいきます。10月に開催したワークショップ／参加型パフォーマンスでは、公募による12名のプレイヤーたちが、言葉に潜む面白さを発見していきました。このワークショップ／参加型パフォーマンスのドキュメントを起点に、グラフィックデザイナーの柏木美月さんが加わってうまれる展示「Fine Gameのつづき」は、3月28日(土)から開催します。



開催概要

「Fine Gameのつづき 一声と言葉を置いてみる」

会期 2026年3月28日(土)～6月9日(火)

会場 1階 TADギャラリー 入場無料

アトリエからのお知らせ

まるごとTADこども美術館＋ 原倫太郎＋原游《アートリバー双六》

「まるごとTADこども美術館+(プラス)」は、富山県美術館が来館される皆様により美術に親しんでいただけるよう、人々とかかわりながら作品制作・発表を行っているアーティストを招待し、当館3階アトリエで実施するワークショップに参加した子どもたちの作品を、アーティストの作品とともに展示する企画です。今年は原倫太郎氏・原游氏を迎え、TADギャラリーに当館コレクションの特色である「20世紀のアートとデザイン」の流れを川

に見立てて「アートリバー」としました。実際に遊びながら、20世紀のアートとデザインをたどることができる作品《アートリバー双六》が登場します。その流れをたどる歩みは、これからの向かう先の子どもたちが生み出すアートへどのようにつながるのでしょうか。子どもたちとアーティストがともに創り上げる展覧会で、遊びを通してアートの楽しさに触れてみませんか。



開催概要

会期 2026年1月15日(木)～3月17日(火)

会場 1階 TADギャラリー 入場無料

《アートリバー双六》イメージスケッチ

村上早《きろく》(2019年)

紙・リフトグラウンドエッチング、エッチング、アクワチント 150.0×118.0cm



犬が人物の腕に噛み付いている。犬の頭部とは対照的にその体は判然としないが、霧のような^{もや}籠気な^{おぼろげ}形が首の下に続き、更にその下には黒い箱 (Black Box) がある。幽霊のようなこの犬は、黒い箱から出てきたのだろうか？ 腕を噛まれる人物の腕と足には毛並みが表され、さながら野獣のようであり、そもそも人間ではないのかもしれない。うなだれる人物の表情は見えないが、額を犬に寄り添わせ、噛まれていない方の腕を犬の背に回していることから、この人物は痛みを耐えるというよりも、むしろ自らの腕を犬に噛ませてあげているように見える。

作者の村上早^{むらかみ さき} (1992年生まれ) は、国内でも数少ない大型プレス機を使用して、大型の銅版画作品を制作する版画家である。特徴的な太く、伸びやかな線描は、リフトグラウンドエッチングという、筆で描いた部分を腐食させる技法により表現されている。銅板を「人の心」、銅板に付ける傷を「心の傷」、インクを「血」、刷り取る紙を「ガーゼ」に見立て、自身のトラウマや記憶をテーマに創作を行う村上は、技法とテーマを混然一体のも

のとして作品に結実させている。犬や馬、鳥などの動物のモチーフが作品に頻出することは、作者の実家が動物病院であった影響によるものである。作品と作者の経験は密接なつながりを持つが、作中の人物の表情が描かれることは無く、見る人が作品から抱く印象は定められていない。村上の作品が、作者の個人的な経験や記憶と不可分であるにしても、私たち鑑賞者は、自身の経験や記憶に手繰り寄せて見ることで、千差万別の物語を紡ぐことができる。あなたのBlack Boxにはどんな「きろく」が保存され、あなたはそれを優しく解放/介抱することが出来るだろうか？

作者は武蔵野美術大学在学中に応募した公募展で受賞を重ね、若手作家ながら東京国立近代美術館を始めとする多くの公立美術館に作品が収蔵されている。当館は、令和6年度に本作と近作である《はおる》(2025年)の2点を収蔵した。本作は上田市立美術館で開催した個展(2019年)に際して制作された意欲作である。

普及課主任 遠藤亮平

富山県美術館 (TAD)

〒930-0808 富山県富山市木場町3-20 (富岩運河環水公園内) Tel.076-431-2711 Fax.076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>